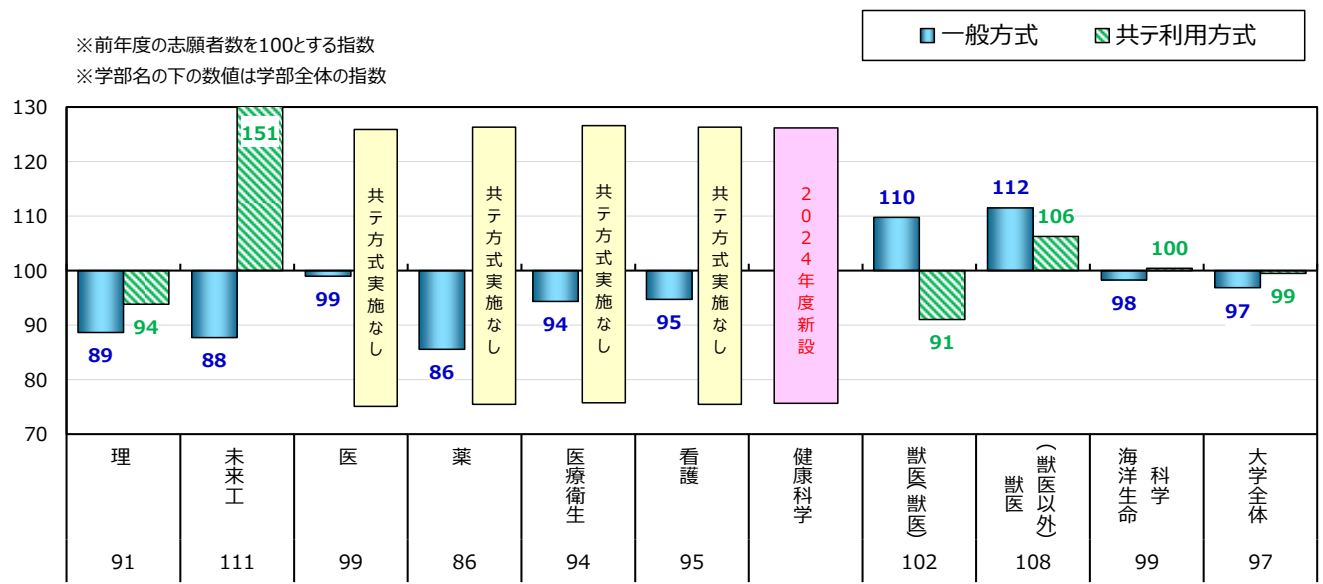


北里大：健康科学を新設したが、一般はやや減少、共テは微減

一般：-296人 共テ：-15人



**主な入試変更点**

キャンパス移転：獣医(生物環境科学)…相模原キャンパス(1年生)、十和田キャンパス(2年生～卒業まで)→相模原キャンパス(1年生～卒業まで)(2024年4月より)

学部新設：健康科学

選抜方法：理<一般>…第2志望制度廃止  
獣医(動物資源科学)<共テ・プラス>…廃止

募集人員：未来工(データサイエンス)<共テ・前期>…5人→15人  
医(医)<一般>…72人→73人  
獣医(動物資源科学)…<一般・前期>30人→20人、<一般・中期>25人→5人  
<共テ・前期3教科>15人→10人  
海洋生命科学(海洋生命科学)…<一般・後期>15人→5人

出願方法：理<共テ・前期>…出願締切日が共通テスト実施後へ

入学検定料：獣医<共テ・前期>…<一般・前期>と同時出願する場合、共テの入学検定料を1試験当たり10,000円で受験可 ※一般・中期は対象外  
→<一般・前期>または<一般・中期>と同時出願する場合、共テの入学検定料を1試験当たり10,000円で受験可

試験会場：医 第1次試験会場に横浜追加、東京除外…<第1次>相模原、東京→<第1次>相模原、横浜  
獣医(獣医除く)<一般・中期>…相模原、仙台→相模原

※その他、詳細は「入試変更点一覧」([https://www2.sundai.ac.jp/news/2024news/s\\_2.pdf](https://www2.sundai.ac.jp/news/2024news/s_2.pdf))参照

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、311人(97)のやや減少で、減少は2年連続。新設の健康科学は、志願者数106人、志願倍率1.0倍だった。これを除いても417人(97)のやや減少。学部・学科別では未来工(111)、獣医(獣医以外)(108)、獣医(獣医)(102)のみ増加で、その他の学部・学科はいずれも減少。方式別では、一般方式は296人(97)のやや減少で、新設の健康科学を除いても402人(96)のやや減少。共通テスト利用方式は理、未来工、獣医、海洋生命科学の4学部での募集で15人(99)の微減。

**<一般方式>**

- 理(89)は、2年連続減少。学科別では、3学科全てで減少。(化)(81)は大幅減少、(生物科学)(92)は減少、(物理)(99)は微減で、いずれも減少は2年連続。
- 前年度開設の未来工(88)は、減少で、志願倍率は5.5倍→4.9倍にダウン。
- 医(99)は、微減だが減少は2年連続。募集人員を1人(1%)増やしたこともあり、志願倍率は27.2倍→26.6倍にダウン。
- 薬(86)は、2年連続増加の反動で減少。学科別では、2学科とも減少。(薬)(84)は2年連続増加の反動で大幅減少、(生命創薬科学)(93)は3年連続増加の反動は小さくやや減少。
- 医療衛生(94)は、募集人員の3年連続減少もありやや減少で、減少は4年連続。募集単位別では、8募集単位中5募集単位で減少。(医療工/臨床工学)(78)は大幅減少で、減少は6年連続で志願者数は80人を下回った。(保健衛生)(85)は大幅減少、(リハビリテーション/理学療法)(91)は前年度増加の反動で減少、(医、検査)(92)は4年連続減少。一方で、(リハビリテーション/言語聴覚療法)(139)は2年連続大幅増加。
- 看護(95)は、やや減少で、減少は2年連続。
- 新設の健康科学は、募集人員110人に対し志願者数は106人で、志願倍率は0.96倍と1倍をわずかが下がった。
- 獣医(獣医)(110)は、増加。方式別では、<前期>(114)は2年連続増加、<後期>(96)はやや減少で、減少は2年連続。
- 獣医(獣医以外)(112)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(生物環境科学)(169)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(動物資源科学)(77)は大幅減少で、減少は8年連続。
- 海洋生命科学(98)は、微減だが、減少は2年連続。

**<共通テスト利用方式>**

- 理(94)は、やや減少、志願者数は4年連続1,000人を下回った。学科別では、(生物科学)(81)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、(化)(106)はやや増加。

- 前年度開設の**未来工(151)**は、1.5 倍増だが、募集人員の 10 人(200%)増加もあり、志願倍率は 33.0 倍→16.6 倍だった。
- 獣医(獣医)(91)**は、2 年連続増加の反動で減少。方式別では、全て減少で、<後期>(68)は大幅減少、<5 教科>(88)は減少、<3 教科>(95)はやや減少。
- 獣医(獣医以外)(106)**は、やや増加。学科別では、(生物環境科学)(137)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(動物資源科学)(84)は 2 年連続大幅減少。
- 海洋生命科学(100)**は、4 年連続減少の反動はなく前年度並。